

図書館報

奈良教育大学附属図書館

第173号

昭和59年12月

研究の思い出

沢田 勇

大学を卒業して研究生生活に入った頃、そのテーマは『鶏に寄生する条虫の生活史に関する研究』であった。当時日本で条虫の分類学的研究といえば山口左伸博士の右にでるものはなかった。先生の業績をみると余りにも立派すぎて教を乞うことが恐ろしいように思えた。この頃先生は京都大学理学部の非常勤講師をされていた。ある日一面識もない私が一度先生に教を乞いたい旨の手紙を書いた。数日して会ってもよいとの返事がきた。その頃の京大理学部生物研究棟は建物が2つに別かれ、本館の北側に山口家の寄附金によって建てられた特別研究棟があり、その中に先生の研究室があった。中に入るとおそまつな木製のドアがいくつも並び、一番奥が先生の研究室になっていた。この時代は終戦後日なお浅く、研究者にとっては決して研究に専念出来るような社会状況ではなかった。先生は暖房のない寒い室で古い机の前に毛布をひざにかけて顕微鏡をみておられた。机の上をみると条虫のプレパラートが山の様に積まれていた。これをみた時大家というものは材料に事欠かないものだなあと感心する一方、どうしてこれ程の材料を収集出来るのか、関西に知人の全くない私には将来に対する不安が頭に浮んだ。

当時私のテーマである鶏の条虫に関しては日本で山口先生の外に大阪大学微生物病研究所教授であった吉田貞男先生の業績を忘れてはならない。一先づ山口先生と吉田先生の業績をよく理解して山口先生に對したのであるが専門用語になると殆んど理解出来ない自分が恥かしくなった。でも折角会うことが出来たのであるから前々から疑問に思っていた鶏条虫 *Raillietina (Raillietina) tetragona* と先生が記載された鶏条虫の新種 *Raillietina (R.) galli* について話をやっとな切り出し、*R. (R.) galli* は *R. (R.) tetragona* の synonym (同物異名) ではないでしょうかと述べてみた。すると先生は原記載をおこなった *R. (R.) galli* のプレパラートがあるからこれをよくみて君の見解を聞かせてほしいと極めてあっさり話を進められ、貴重なプレパラートをさし出された。学者というものは一度新種を記載すると自分の主張をおし通して引かないものである。私のようなかけ出しのやからに先生からプレパラートをもらい synonym かどうか検討せよといわれた時、事の重大性を胸にしまい、夕ぐれ迫る京都を後にした。

奈良に帰って翌日から顕微鏡を使って私のつくった *R. (R.) tetragona* と先生から貸りた *R. (R.) galli* のプレパラートを比較観察し約1週間かけて検討した結果、*R. (R.) galli* はやはり *R. (R.) tetragona* の synonym とした方が妥当であるという結論に達した。私は自信をもって再度先生の研究室を訪ねた。そして私の決論を申し上げたところ、君がよく比較検討して結論をだしたのであるからそれでよかろう。しかし、このまゝでは他の研究者に synonym であることがわからないから君は学会誌に発表してほしいとおっしゃった。学者としての謙虚さに接し、私の研究への意欲をふるいたたせた。そして、数カ月後『*Raillietina (Raillietina) galli* Yamaguti と *Raillietina (Raillietina) tetragona* (Molin) との形態比較』と題して動物学雑誌64巻第3号(1955)に発表した。これがきっかけとなって先生とは学会ごとに顔を合わせ、いろいろ条虫の研究についての注意を受けた。ある時、学名の記載にあたり、私の不勉強

強からとんだ誤をおかし、先生からきついおしかりを受けたことも今はなつかしい思い出の一つである。先生は語学の力が特にすぐれ、私などは立ちうち出来ない若僧であったが常に親切に導びいて下さったことが今日の私がある所以である。

先生は京大を止められてから岡山大学医学部の教授となり、停年後、奥様と共にロックフェラーの招きでアメリカに渡り、数年かけて世界の誰かがまとめることの出来なかった寄生虫の集大成 Systema Helminthum Vol. 1-3 を完成された。この中の Vol. 2, Cestodes は私にとってなくてはならない書物である。この本の特徴は大半がこれまで世界各地の学者によって発表された研究業績で示められていることである。ところが困ったことにこれらの文献が何処に所蔵されているか全くわからない。止むなく山口先生の研究室を訪ねた。すると先生はアメリカという国は研究者にとっては非常に都合のよい国で立派な文献集 Index-catalogue of Medical and Veterinary Zoology が United States Department of Agriculture から発行されているので一度この文献集の購入について United States Government Printing Office に連絡をとってみたらとおっしゃった。早速注文の手続きをとった。約10日して、膨大な小包が送られてきた。開いてびっくり Part 1 (1932年発行) から Part 18 (1964) までの18冊と、Supplement 1 (1953) - 14 (1964) の計32冊が入っていた。この文献集には世界各地の寄生虫の学者によって発表された業績のタイトルがアルファベット順に並べられ、著者の所属場所、更に別刷の所蔵場所まで記入されているのでこの文献集をみれば世界各地からの文献のコピーがたやすく入手できる。この文献集はその後、数部門に別かれて新版が続々と発行されている。そして発行ごとにいつも私のものと送られてきた。一昨年まではこの膨大な資料の掲載された文献集がすべて無料で送られてきたのであるがアメリカも日本同様政府の行政のあおりを受けたのか昨年からは有料となった。年2回送られてくる文献集をみる度に今はなき山口左仲博士の面影を忍んでいる。

附属図書館運営委員会

昭和59年度委員名簿

委員長	沢田 勇	
委員	内田 茂	梅田甲子郎
	北川 尚史	滝野 千春
	田崎 健郎	谷本 泰子
	松村 竹子	真鍋 昌弘

第1回委員会（4月25日）

- ・昭和59年度図書館運営委員会委員長の選出。
- ・本年度図書の収書方針について審議した。
- ・増加図書目録（第11巻）を刊行することにし、刊行費の予算を要求することになった。
- ・推薦図書の選定を行った。
- ・本年度図書館報及び書想の発行について。
- ・全国共同利用大型コレクションの申請について。
- ・学芸談話会について。

第2回委員会（7月11日）

- ・昭和59年度予算及び図書購入費配分計画を承認。
 - ・推薦図書の選定。
 - ・ライブラリーホールの概算要求（中間報告）について。
 - ・図書館臨時休館の承認。
 - ・その他（報告事項）
- (1)全国国立大学図書館事務部課長会議の報告。

(2)国立大学図書館協議会の報告。

(3)学術情報システムの近況について報告。

第3回委員会（9月19日）

- ・外国雑誌の整理について。
予算の都合上、図書館の費用で購入している外国雑誌は13部のうち4部減らすことになった。
- ・図書館の利用について。
最近、特に試験期に図書館を利用する学生が大へん騒がしい。この対策について協議された。

第4回委員会（10月31日）

- ・附属図書館運営委員会規則の一部改正。
第3条、委員の選出の方法について、現行は特定の学科に片寄っているので、できるだけ多くの学科から出られるよう規則の一部改正を検討した。
- ・京都大学等大型計算機のオンライン利用について。図書館内での試行の説明と協力依頼。
- ・推薦図書の選定した。
- ・学芸談話会 12月上旬井上哲夫教授にお願いすることになった。
- ・図書整理のため臨時休館を承認した。
- ・全国国立教育系大学附属図書館協議会の報告。

第31回国立大学図書館協議会総会（報告）

第31回国立大学図書館協議会総会が、6月14日・15日の両日にわたり松山市公立学校共済組合宿泊所にぎたつ会館において開催された。今年度は中国四国地区協議会が当番地区で、愛媛大学附属図書館が当番館となってお世話された。本学から図書館長と事務長が出席した。

総会は例年のとおり協議会々長（東大図書館長）の挨拶から始まり、午前中は一般経過報告・各地区協議会報告・調査研究班報告・各種委員会報告及決算報告などの報告がなされた。午後から文部省係官により文部省所管事項の説明があり、続いて研究集会があった。研究集会のテーマは“文献情報センターの設置に伴う各大学図書館の今後の業務の在り方について”、東京大学・大阪大学・九州芸術工科大学のそれぞれの附属図書館の係員から研究発表があった。

第2日目は分科会（第1分科会運営・サービス、第2分科会予算・人事）が開かれ、本学は第1分科会に出席した。第1分科会では、

1. 文献情報センターの設置に伴う地域ネットワークの形成について
 2. 学術情報センターの早期実現について
 3. 文献情報センターにおける学術情報システムの構成機能に対応した大学図書館のなすべきことについて
 4. 図書館サービスにおける相互協力体制の制度化
 5. 学術雑誌の保存対策及び利用の共同化について
 6. 図書館業務電算化の早期実現について
- その他

第2分科会では

1. 電算化推進・運用のための要員の研修につ

いて

2. 学術情報資源の確保充実について
3. 図書館職員の資質向上について
4. 定年制の施行（昭和60年3月31日）に伴う欠員不補充措置の緩和について
5. 図書館維持費・資料費等の増額について

そのほか、各地区から出された協議題に基づき討議された。そのあと全体会議をなされ分科会のとりまとめをされた。その結果、今年も文部大臣に対し本協議会から要望書を出すことになった。要望書は事務局で原案を作成し常務理事館の校閲を得て、会長が提出することになった。（その結果7月27日文部省に提出された要望書要旨は下記のとおりである。）この協議会に参加して各国立大学図書館の動向について検討したが、特に大きな動きはなかった。

文部大臣宛要望書要旨

学術情報システムの実現に関する要望について

さきに学術審議会は、学術情報システムの構築に関し答申を行った。行政当局はその実現に努力されているが、国の財政困難な時局下においてその実現が遅延している。本協議会の総意に基づき、関係当局におかれて特段のご配慮を賜りたい事項を特記し要望申し上げます。

I 学術情報システムの体系の整備

1. 学術情報センターの設置を促進すること
2. 大学図書館の電算化を促進すること

II 学術情報資源の充実

1. 自然科学系外国雑誌購入の助成
2. 学生用図書費の充実

III 学術情報システムの実現のための要員の確保

学 芸 談 話 会

7月4日（水）午後2時50分から、教育学センター授業研究室において、学芸談話会を開催いたしました。このたびは木村博一教授にお願いいたしましたところ、特定研究「文化財教育に関する総合的研究」の成果の一端をお聞きいただきたいということで、共同研究者のおひとりである脇田宗孝助教授とおふたりでお話しをして下さいました。木村教授は「文化財保護の歩み」と題して、脇田助教授は「巨大埴輪の復元」と題してスライドを混じえて、それぞれ興味深いお話しをして下さいました。おふたりの先生がたに厚く御礼申し上げます。

オンライン情報検索サービスの試行について

現代社会における科学技術の急速な進歩は、様々の分野に大きな変革をもたらしています。学術研究の分野においても、また、学術研究を側面から援助する図書館においても同様です。

図書館の役割は、簡単に言えば情報を利用者に迅速・的確に提供する事であります。

これまでは冊誌体、印刷形態で発行されていた索引誌、抄録誌等の二次資料が、コンピュータを利用したデータベースという形態に変わって来ています。

そこで附属図書館としても、これらのデータベースをオンラインで利用する可能性を検討してまいりましたが、当面全国共同利用大型計算機センターで公開されているデータベースを利用してゐる事にしました。現在はまだ試行の段階ですが、それぞれの分野の研究者の方々の助言をいただき、実際に検索を行ってみたいと思います。利用してみようと思われる方は附属図書館までお申し出下さい。

利用できるデータベースの中からいくつかを次に掲げておきます。詳しい資料は附属図書館にあ

りますからご照会下さい。

京大

ERIC (RIE, CIJE) 教育学、教育関連の文献情報

INSPEC 物理学、電気・電子工学、計算機・制御工学の文献情報

JMARC 国会図書館に納本された図書に関する文献情報

東大

CAS 化学に関する文献情報

ULP 学術雑誌総合目録データベース

筑波大

AHCI (ARTS AND HUMANITIES CITATION INDEX) 人文科学引用索引

CDI (COMPREHENSIVE DISSERTATION INDEX) 学位論文

PA (PSYCHOLOGICAL ABSTRACTS) 心理学関係

EDMARS 日本の教育関係学術雑誌からの二次資料

学内教官著作寄贈図書

寄贈者

鈴木寛男 『美術教育学概論』 鈴木寛男ほか監修 黎明書房

藤永太一郎 『琵琶湖の開発と汚染』 藤永太一郎編 KK時事通信社

『琵琶湖の動態』 藤永太一郎編
KK時事通信社

中留武昭 『校内研修を創る』 中留武昭著
エイデル研究所

“ 『未来に生きる教師』 伊津野朋弘編
東京学芸大学教師教育研究会 エイデル研究所

“ 『現代の教育原理』 中留武昭ほか共編
学術図書出版社

諸 会 議

- | | | |
|------------|-------------------------------------|------------|
| 3. 28 | 近畿地区国立大学図書館協議会 | 於 京都大学 |
| 5. 30 | 昭和59年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (文部省主催) | |
| | | 於 東京医科歯科大学 |
| 6. 4 | 第53回近畿地区国公立大学図書館協議会総会 | 於 奈良女子大学 |
| 6. 14 ~ 15 | 第31回国立大学図書館協議会総会 | |
| | 於 公立学校共済組合道後宿泊所にぎたつ会館 (愛媛大学) | |
| 7. 18 ~ 19 | 第15回国立教育系大学附属図書館協議会研究部会 | 於 奈良教育大学 |
| 10. 18 | 第9回全国国立教育系大学附属図書館事務 (部・課) 長会議 | 於 宮城教育大学 |
| 10. 19 | 第17回全国国立教育系大学附属図書館協議会総会 | 於 宮城教育大学 |
| 10. 8 | 近畿地区国公立大学図書館協議会第9回館長・事務 (部・課) 長連絡会議 | |
| | 於 大津公立共済 さざなみ荘 滋賀大学 | |